自然に優しいカメムシ農法

兵庫県立大学附属高等学校1年　菅藤　康平

突然ですが、カメムシと聞くと何を思い浮かべるでしょうか。ほとんどの人がこげ茶色や緑色のオーソドックスなカメムシを思い浮かべると思います。しかし、カメムシは高山から遠洋、1㎜以下のものから10㎝のものまでその数は軽く数万種は知られており、未だ、解明されていない未開の領域が多くある昆虫です。しかし、日本においてカメムシは、農林水産害虫とされていて、嫌悪されてきているのが現状です。そこで、カメムシへの理解を変え、日本の農作物保護のため、カメムシ保全と農産物保護の両立の効率化を調べようと思いました。

最終的な目的は、前述したようにカメムシ保全と農産物保護の両立の効率化である。そのため、今年は兵庫県赤穂市を拠点として相生市・兵庫県立大学附属高等学校付近などにおけるカメムシの生息状況調査を行い、図鑑を作りました。

カメムシ一匹一匹の詳しい生態は、図鑑で紹介している。ここでは調査で生息が確認された206種のうちから、カメムシ農法として着目しているカメムシ、あるいは調査で得られた再調査を要するカメムシの一部を取り上げて紹介します。

「カメムシ農法として着目しているカメムシ」に関しては、言い換えると肉食性および雑食性カメムシのことです。カメムシ農法というのは、植食性カメムシの増殖を肉食性カメムシを用いて抑制し、農産物を病気から守る方法のことを意味しています。また、普通種であるか、体力が非常に高いカメムシであるかを基準に選定しました。

次に、「調査で得られた再調査を要するカメムシ」に関しては、分布域外または生息環境外の採集や、新種の可能性が極めて高いカメムシについてしょうかいしています。これらのカメムシに関しては、再度調査を行う予定です。

今年の結果は、西播磨地域におけるカメムシは206種確認できました。この結果を踏まえ、カメムシ農法の研究を行い、カメムシ農法の有効性について証明したいです。